

<「知るっば！久留米」 令和3年7月1日（木） 12：30～放送分>

全国総本宮 水天宮 ～第1回～ 「水天宮の起源や歴史」

<ゲスト：全国総本宮 水天宮 権宮司 眞木 啓樹さん>

坂本 MC（以下「坂本」）

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

7月、水天宮さんでおなじみの『全国総本宮 水天宮』をテーマにお送りしていきます。

ゲストはこの方です！

ゲスト：眞木さん(以下「眞木」)

こんにちは！

全国総本宮水天宮の権宮司(ごんぐうじ) 眞木 啓樹(ひろき)です。よろしくお願いします。おおお

坂本 よろしく申し上げます。今月は5回シリーズでお送りします。

1回目の今日は、『水天宮の起源や歴史』をテーマに様々なお話を伺います。

まずは、水天宮の起源からお伺いします。

眞木 水天宮の起源は、今から830年ほど前の時代、西暦1190(建久初)年になります。

按察使局伊勢(あぜちのつばねいせ)という方が創建されました。

これが、今の水天宮に残る最初のスタートです。

その頃は、平安時代末期から鎌倉時代にあたる騒乱期にあたります。

日本各地では、源平合戦で権力争いが非常に多くありました。

水天宮の起源というのは、その平氏が亡くなる1185年の壇ノ浦の戦いまでさかのぼります。

坂本 壇ノ浦の戦いというと、今の関門海峡のあたりで起きた源平の合戦ですね。

平家の最期は、とても悲しい終わり方だったと聞いています。

眞木 「平家物語」にも描かれていますように、敗戦を悟った平家の武将や女官、

また、まだ幼い安徳天皇は、祖母の二位尼(にいのあま)に抱かれながら海の中へ沈んでいった、崩御(ほうぎよ)されたと言われていました。

実際に生き残った平氏達も源氏に捕まるわけですが、後には解放されて、

今でも九州各地や四国に平家の歴史や伝説が残ると言われています。

そして、最初に水天宮が建った場所が、鷺野ヶ原(さぎのがはら)という場所です。

今のアサヒコーポレーションの工場あたりから筑後川を渡ったところが

鳥栖市の下野町(しものまち)ですが、

そのあたりが鷺野ヶ原という地名になるんじゃないかと言われていました。

坂本 身近なところにそういう歴史的な場所があったんだなあと驚きもあります。
平家のみなさんは、山を越えて、川を下って大変な道のりだったと思いますが、
100km近く逃げ延びて、ようやく安心したのかなあという気がしますね。

眞木 はい。本当に道が無いところをずっと歩いてきたんじゃないかなと思っています。
この一行の中には、安徳天皇の母にあたる高倉平中宮（たかくらたいらのちゅうぐう）に仕えていた、
先ほども名前が出ていましたが、按察使局伊勢という方がいました。
この按察使局伊勢は、水天宮を建てる際に剃髪、つまり髪を剃って尼さんになるわけですね。
そして、1190（建久初）年に水天宮を初めてお祀りします。
名前を千代（ちよ）としまして、本当に尼さんになられます。
ですので、水天宮の最初は、尼御前（あまごぜん）神社と言われていました。
周りに住むみなさんに祈禱していくうちに、どんどん集まる人たちが増えていったと
言われているのが当時の尼御前神社です。

坂本 水天宮にはどんな御祭神（ごさいじん）、神様が祀られているんですか？

眞木 まず御祭神で言いますと、「天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）」、
「安徳天皇」と安徳天皇の母にあたる「高倉平中宮」、
そして、安徳天皇の祖母にあたる「二位の尼」の4柱（はしら）をお祀りしております。
昔から農業や漁業、海の航海の安全に信仰が集まっていたので、
海に関わることから「安産」であったり、水に関わることから「子どもの守り神（守護神）」
ということで御神徳を集めていました。

坂本 なるほど、それで多くの参拝者が訪れていたということですね。
そんな水天宮ですが、水天宮を代々守ってきたみなさんも、
伊勢と関係が深い人物が起源になっていると聞いていますが？

眞木 そうですね。まず、按察使局伊勢は尼さんになりましたので、
自分の子供を身ごもることができないということから、次の二代目宮司、
神官として平知盛（とももり）の孫にあたる平右忠（すけただ）を養子に迎え入れます。
そして、その後継ぎがずっと続いて、平家が後を継いでいきます。
今は眞木という名前ですが、実は15代目から眞木に変わりました。
この眞木という名前は、熊本の眞木村というところがあるんですが、
この眞木村も平家が落ちしのんだ場所ということで、
その眞木村から男系の血を持ってきたので、眞木という名で続いているんですよ。
ちなみに、第22代目の宮司である眞木和泉守保臣（まきいずみのかみやすおみ）は、
明治維新の先覚者として活躍をして、今の境内に眞木神社や、銅像があります。

坂本 明治維新の時代の真木和泉守保臣が22代ということなので、歴史の深さ、長さを感じますね。
権宮司の真木さんは、何代目になられるんですか？

真木 権宮司というのが、副だったり補佐の意味がありますので、
実際に宮司になってからカウントをします。実際、現在の宮司は、28代目になります。
もし、私がお後を受け継いだとして29代目になるということになりますが、
本当に時代の流れが830年以上ありますので、
自分がその歴史のひとつの節目であるということは、非常に重く感じているところでもあります。

坂本 そんな歴史のある水天宮さんなんですが、非常に境内も広くて、
例えばさっきも出ました真木神社もあるのですが、色々な史跡とか石碑があると聞いています。
いくつか教えていただけますか？

真木 はい。ちょうど水天宮のご本殿の東側に、
水天宮の創始者・按察使局伊勢を祀る千代松神社がございます。
また、太鼓橋を渡る手前側には、高浜虚子（たかはまきよし）が書いたとされる、
筑後川を眺めながら詠んだ俳句の石碑があります。
あとは、真木和泉守が久留米藩から謹慎を命じられた時に住んでいた筑後市水田、
恋木神社で有名な水田天満宮の近くに「山梶窩（さんしか）」という建物があるんですが、
その山梶窩を復元した建物（レプリカ）が境内にはございます。
そして、本殿の真北側、ちょうど裏側にありますが、水神社というお末社がございます。
そのお末社の手前には、小さな「なで狛犬」がいます。
そのなで狛犬は、例えば、腰が痛かったらなで狛犬の腰をさすった後に自分の腰をさすと
その痛みが取れたり、治ったりすると言われていました。
本当の名前は「肥前狛犬」という狛犬ですけど、そういう可愛い狛犬があったりしますね。
あとは本殿の周りに椿が植えられています。
咲く時期は種類によって違うのですが、だいたい春先くらいには色とりどりの花がいっぱい咲いて、
お参りに来られるみなさん方の目を楽しませるところもでございます。

坂本 実は私、水天宮さんのすぐ近くに住んでいて、
うちの子どもたちも「船太鼓」をたたかせてもらったり、境内で遊ばせてもらってセミ取りをしたりと、
とても身近な存在なんですよ。
なので、真木さんからお話をお聞きするのをとても楽しみにしていました。
まだまだたくさんお聞きしたいのですが、第2回目以降にも続くということで、
今日はお時間となってしまいました。
真木さん、貴重なお話をありがとうございました。
水天宮にお越しの際は、密を避け、境内の感染症対策にのっとって参拝してください。
来週は、『水天宮にまつわる慣習や縁起物』についてお話をお聞きします。
おたのしみに。